

# 行きたい場所を どうぞ

作 瀬戸山 美咲  
演出 大谷 寛治 郎



## 製作意図

この作品は「人生の選択」というテーマから生まれた物語です。何に対しても諦めがちだった高校生の光莉がAIロボット夕凧と旅をし、様々な価値観に触れていくことで「自分で選び、自分らしく生きていくこと」を見つけていきます。

～選ぶとは？可能性とは？自由とは？～

出会いの中で成長する光莉の姿を通し「諦めないで一步前に踏み出したなら何かが起こる！」ということは今を生きる子どもたちと一緒に考えていけたらと思います。

2023年から各地で上演中。「いまの自分を見つめ、未来に向かって前向きに考えられた」など、好評をいただいています。

## 感想

「あってもなくても良いものはあっちゃいけないの？」とか「1人で生きていけない人もしたい事していいと思う」とか、今の自分に刺さる台詞がいくつもあって何度も泣いてしまいました。(高校生)

自分は何のためにいるのだろうか、あの劇を思い出しながら考えています。僕はこの劇を一生忘れたくないと思っています。主人公の気持ちは僕と似ているところも多く、とても共感できて、この劇に会えて本当に良かったと感じています。(中学生)

「行きたい場所が見つからない」というのは、進路選択を意識する高校2年生、3年生にとっては切実なテーマであると思います。また、主人公の「母の理想とする自分を打ち破ることができない」状況も、中高生が自身と重ねられる部分だと思いました。(大人)

美術 = 池田ともゆき  
照明 = 松浦みどり  
音楽 = 青柳拓次  
音響効果 = 坂口野花  
衣裳 = 宮岡増枝  
舞台監督 = 青木幹友  
製作 = 白木匡子 / 久保田敬博



## あらすじ

近未来のとある駅。待ち合わせ広場に設置された道案内用AIロボット・夕凧(ゆうなぎ)は、この街のことなら何でも知っている。ある日、この街に引っ越してきたばかりの高校生・光莉(ひかり)が現れた。

「行きたい場所をどうぞ！」と尋ねる夕凧に光莉は「ネラ」に行きたいと言ってきた。

しかし「ネラ」はデータにもなく、検索しても引っかからない…。

「一緒に探しに行きましょう！」

夕凧は光莉の手を取り電車で飛び乗るのだった。

こうして、女子高生とロボット、二人の「行きたい場所」探しの旅が始まった。

道中で出会う人々や、そこにいるロボットたち。その出会いで二人の気持ちにはある変化が…。

